角館のお祭りの 歴史

江戸時代に角館を治めた佐竹北家の記録『北家御日記』に角館のお祭りに関する多くの記述があり、1799年(寛政11年)に「勝楽町薬師祭礼に付き、町々より山都合40ばかり表門より見る」とあります。

武家の住む武家屋敷(内町)以外の町人の町を外町と呼びます。江戸時代中頃、外町(外町は九町内あります)から出された人形を乗せたヤマが成就院薬師堂の祭典で繰り出されていました。そして当時からヤマは成就院薬師堂を参拝し、佐竹北家当主の上覧を仰いでいました。

明治初期、神仏分離政策のもと成就院薬師堂は一時期寺から神社となり、祭りの継続が危ぶまれましたが、6月の神明社の例祭と薬師堂のお祭りを一緒にして、祭礼を旧暦8月7日から三日間として続けられるようになりました。まさに、お祭りに対する角館衆の熱意の表れといえるでしょう。以後、薬師堂・神明社の両者祭礼にヤマが出されるようになりました。

その後、ヤマの形態は変化を遂げますが、戦時中も途絶えることなく脈々と現在まで受け継がれています。

角館飾山古図
『日本民俗芸術大観第1集 飾山囃子の記録』
(昭和7年 郷土研究社)

角館のお祭り 三日間

祭り期間中、各丁ヤマが町中を曳き回されますが、各丁には丁内の「境界」があり、自丁内を取り仕切る「張番」が設けられます。ヤマが「境界」に差しかかると「張番」に入丁許可を得る必要があり、許可を得たヤマは入丁して「張番」に囃子と踊りを披露します。またその丁内を出るときにも「張番」に御礼を述べて次の丁へ向かいます。

丁内は江戸時代から続き今も維持され、さらに祭りに加わる地域も拡大して現在では30丁を超え、それぞれに「張番」が設けられているため、ヤマの曳き回しは町を一気に進むことはありません。

置き山

曳山のほかに動かない大きな置き山も各所に飾られます。

薬師堂置き山▶

張番

◀張番での入丁の交渉

9月7日

10:00 角館神明社例祭

例祭神事▶

16:00 角館神明社参拝

各丁18台のヤマが参拝に訪れ、鳥居前にヤマを付けて囃子と踊り奉納します。奉納のさなか、若者・子供は拝殿で参拝してお祓いを受けます。ひとつのヤマが参拝を終えるまで約30分近く要し、18台のヤマが参拝を終えるのは深夜に及びます。

◀神明社への囃子奉納

20:00 角館神明社宵宮祭

各丁の参拝・奉納が続くなか拝殿で宵宮祭が行われます。

人形

ヤマの上には神を迎える黒木綿で作る巨大な山(もっこ)と、目に見えない神を認識させる手段としての人形が飾られます。角館のお祭りの武者人形や歌舞伎人形のルーツは元禄時代に遡る歴史あるものです。

9月8日

7:00 角館神明社神幸祭

神霊を乗せた御輿が夕刻まで町を神幸します。

武家屋敷での神幸▶

10:00～ 佐竹北家上覧

江戸時代からの慣わしで18台のヤマは囃子と踊り、ヤマの出来ばえを、表町上丁の旧石黒(恵)家で佐竹北家当主に披露します。

▲当主上覧

当主に囃子と踊りヤマを披露▶

15:00 成就院薬師堂祭典(法楽)

午後 成就院薬師堂参拝

8日午後から9日夜までに亘り、18台のヤマが訪れ、囃子と踊りを奉納し、若者・子供は薬師堂に参拝してお祓いを受けます。

夕方～ 観光やまぶっつけ

角館のお祭りの名物のひとつである「やまぶっつけ」。基本的には9日深夜に多くみられますが、それはいつどこで行われるかは決まっていないために、観光用に「やまぶっつけ」が行われます。観光用といっても驚きの迫力です。

9月9日

6:15 成就院薬師堂御輿巡行

僧侶がお祓いした御輿が薬師堂を出発し、夕刻まで町を巡行します。

10:00～ 成就院薬師堂参拝

8日に参拝しなかったヤマが9日の夜まで薬師堂参拝に訪れ、囃子と踊りを奉納します。

夜～早朝 やまぶっつけ

夕刻から各丁のヤマがそれぞれの作戦のもと町中を曳き回し、各丁で囃子や踊りを繰り広げますが、この日は通行優先権をめぐる駆け引きが激しくなり、交渉が決裂すると「やまぶっつけ」が各所で発生します。早朝、引き回しを終えてヤマは各丁へ戻り、祭りは終わります。

▲ヤマの前で交渉員が交渉する

おやま囃子

ヤマの上で囃し、踊られる「おやま囃子」。囃子は大太鼓、小太鼓、鼓、笛、三味線、摺り鉦の奏者6～7人がヤマの下部の狭いスペースで演奏します。囃子はヤマが出発して丁内に戻り、ヤマが納められるまで囃し続けられます。

踊りは神明社、成就院薬師堂への参拝、北家当主の上覧、門付、各町の張番などヤマの曳き回しのさなか何度も、紫の紋付やかすりのおばこ姿の踊り手がヤマの前舞台で踊ります。

囃子

【寄せ囃子】
…ヤマが動くことを知らせる囃子
【上り山囃子】
…参拝など目的地へ向かうときの囃子
【下り藤】
…ヤマの方向転換時の囃子
【道中囃子】
…「下り山囃子」とも呼ばれ、目的地から帰路での囃子
【神楽囃子】
…「やまぶっつけ」のときの囃子

踊り

【拳囃子】【二本竹】
…奉納、北家上覧、張番などで踊られる曲
【秋田甚句】【秋田おばこ】【おやまこ】【秋田音頭】など
…町内を賑わす余興の踊りの曲